

スムーズ横断歩道の実証実験を実施しました！

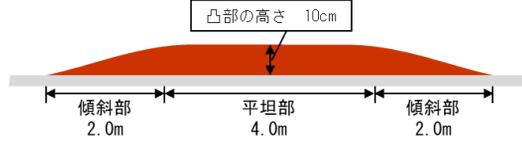
1 実証実験の概要

【場所】千田小学校北西の交差点

【期間】令和4年11月7日（月）から
令和4年12月2日（金）まで

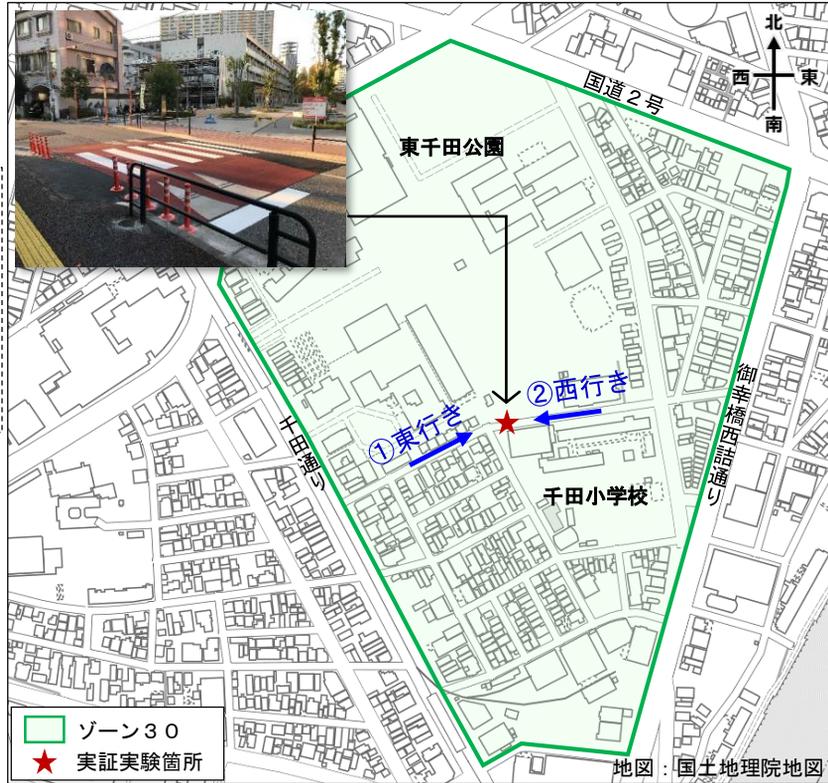
【内容】スムーズ横断歩道の設置

横断歩道部を10cm盛り上げ、ハンプ形状とすることにより、その部分を通過する車両を押し上げ、運転者が事前にこれを視界の中で確認して減速させる道路構造



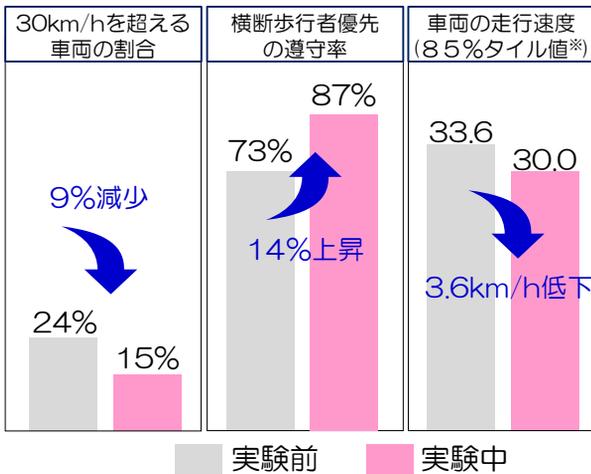
【検証方法】

- ビデオ撮影による交通状況調査
 - ・30km/hを超えて走行した自動車の割合
 - ・横断歩道を渡ろうとする歩行者がいる場合の一旦停止遵守率 など
- 地域へのアンケート調査
 - ・スムーズ横断歩道利用時の感想
 - ・騒音、振動の実感 など

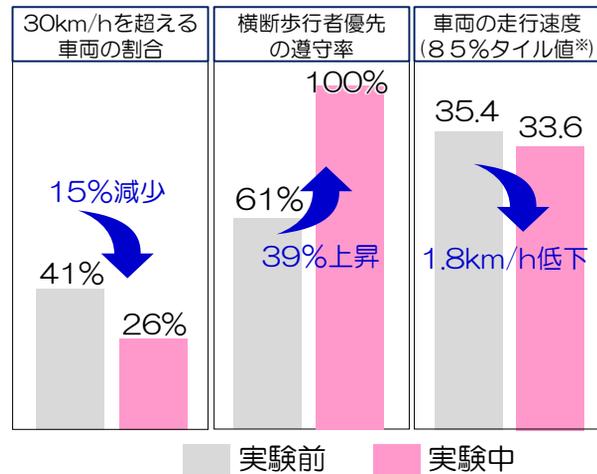


2 交通状況調査の結果とまとめ

① 東行きの走行車両の調査結果



② 西行きの走行車両の調査結果



結果のまとめ

- ・「30km/hを超える車両の割合」及び「横断歩行者優先の遵守率」は、**両方向とも向上しました。**
- ・東行きの「車両の走行速度」は、約3.6km/h低下し、**制限速度内**となったことから**速度抑制の効果が得られました。**
- ・西行きの「車両の走行速度」は、約1.8km/h低下したものの、**制限速度を上回る結果**となったことから**速度抑制の十分な効果は得られませんでした。**
 - 西行きの車両速度が低下しなかったのは、東行きに比べ、西行きの道路の周辺環境が、**速度が上がりやすい環境**であったためと思われる。
 - 東行き > 歩道がなく、沿道の住宅からの出入りがある。また、横断歩道手前に三差路もある。
 - 西行き > 歩道と車道が分離され、沿道に住宅がないため出入りが無い。横断歩道まで見通しも良い。

※その地点を走行する車両の85%はこの速度以下で走行していることを表し、通常の走行をしている車両の速度の上限値とみなすことのできる速度 (出典：交通工学研究会Webサイト 「交通工学用語集」)

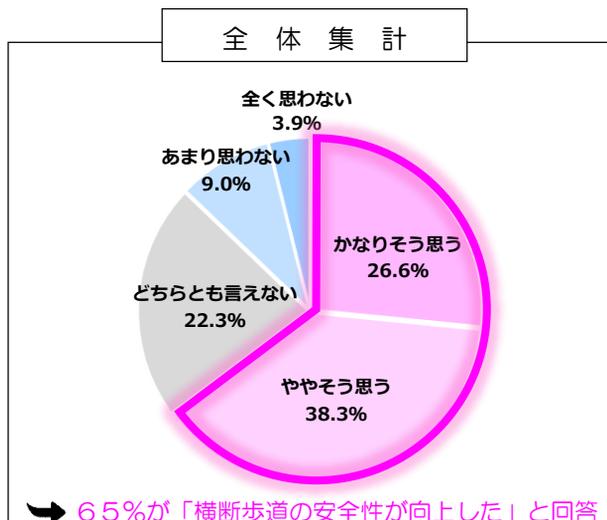
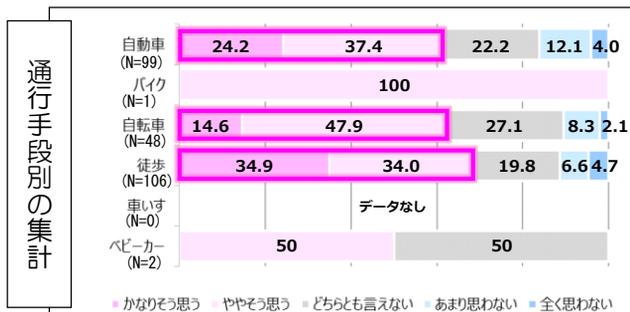
スムーズ横断歩道の実証実験を実施しました！

3 地域へのアンケート調査の結果とまとめ

① 横断歩道の安全性の向上の実感

問 スムーズ横断歩道の設置により、横断歩道の安全性が向上したと思いますか？

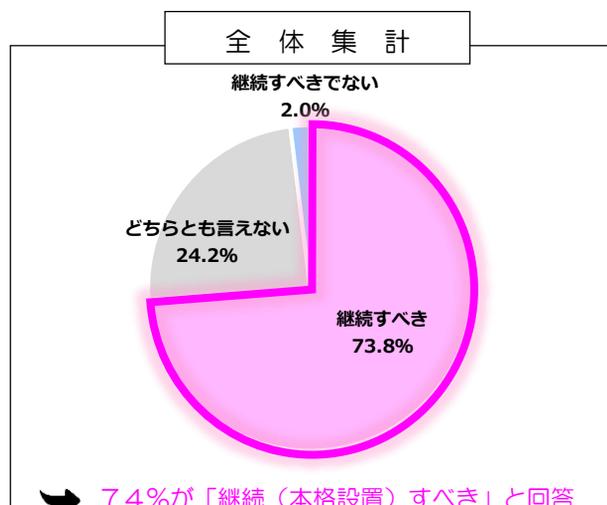
→ 全体の集計結果を右図に、通行手段別の集計結果を下図に示します。



② スムーズ横断歩道の本格設置の必要性

問 スムーズ横断歩道の継続（本格設置）の必要性について教えてください。

→ 全体の集計結果を右図に、通行手段別の集計結果を下図に示します。



③ 騒音・振動及び二輪車のふらつきなどの危険性の実感

- ・騒音、振動は気にならないと回答した方が多くを占めました。
- ・二輪車のふらつきなど危険だと感じた方はいませんでした。
- ・騒音、振動に関する意見や、改善を求める意見がありました。※

※

- ・窓を開けないため、騒音は気にならなかったが、段差が小さく、意味がなかった。
- ・手前から段差があることを周知すべき。
- ・速度が出ていると（騒音・振動が）気になるため、事前に速度を落とさせる工夫が必要。

結果のまとめ

- ・65%の方が横断歩道の安全性が向上したと実感され、74%の方が本格設置の必要性を感じていることから、**多くの方にスムーズ横断歩道の有効性を実感してもらえ**る結果となりました。
- ・一方、騒音、振動に関する意見や、改善を求める意見もあったことから、**地域と合意形成が図れるよう、必要な対応策を検討していく必要**があります。

今後の取組

- ・今後、本格設置に向けて、地域と合意形成が図れるよう**設置効果を広く周知**するとともに、交通状況調査の結果を踏まえ、**スムーズ横断歩道の手前でしっかりと減速させるための対策を検討**したうえで、**市・警察・地域の3者が連携して取り組んで**いきます。